

---

# なくしもの

とりゅっぷ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
なくしもの

【Nコード】  
N7003R

【作者名】  
とりゆっぴ

【あらすじ】  
羊のような姿をしているマフィ。マフィの暮らす世界ではみんなそれぞれの能力を持っている。しかしある時ワケあって家出してしまふ。気がつくところには人間界だった。  
ちなみに、マフィ目線だったり莉子目線だったり、章によって時々変わります。

## ハジマリ(前書き)

初めてなので変なところもたくさんあると思いますが、多めにみてやって下さい。

## ハジマリ

「こんな家こつちからごめんやつ！」

そういつて家を飛び出して真つ白の光に包まれたところまでは覚えてる。

でもこんなどこ来た覚えないんやけど・・・ここどこや？建物の中みたいやけどうち暮らしてた家とはまるで違う。形も丸やなくて四角いし、天井もめつちや高いし、なにより勉強机とかベッドとかでかすぎやろ！うちの体の何倍もありそうや。なんでこんなところにいるんやろ・・・

「あつ！ぬいぐるみが動いてる！！！」

声のしたほうを見ると、・・・どええつに、にに、人間やないか！どないしよう、しかも自己中といわれる女の子やんか！早く逃げな・・・いや、その前に記憶を消さないとひどい目に遭うかもしれへん。

「どうして？もしかしてポルターガイスト現象！？やだあ憑りつかないでよっ。」

女の子はキヤーキヤー言つてすわりこんでいる。腰ぬけてしもたんかな。でもこんだけ騒がれたら他の人間にも気づかれてまうわ。それはさげたい。

「ちよつと黙ってくれへんか？うちはぼるたーなんちゃらゆうやつとは無関係や。あんたにはぬいぐるみに見えても、うちはちゃんと息すつて生きてんねん。」

「うそつぬいぐるみがしゃべったー！声かわいいつーきもちいつー」

気づいたらあつという間にうちはその女の子の腕の中だった。く、くるしい……。

「いや、だから他の人間に気づかれるから静かにしてほしいんやけど。」

「大丈夫。今家に私しかいないから。あのね、私は莉子っていうの。あなたは？」

「……マフィヤけど。あのさ、腕……苦しいねん。」

女の子、莉子はごめんねといいながらやっとなんか放してくれた。まあ珍しい思うのも無理ないやんな。うちは人間とちごうて、人間界でいう羊のような姿でおおきさも人間の両手にのるぐらいなんやから。

「あんな、うち人間に見られたらあかんねん。だからな今からあなたの記憶少し書き換えさせてもらうからじつとしてくれるか？」

「ま、待ってよ！どうしてそんなことするの？」

面倒くさい子やなあ。うーん……ま、後で記憶消すし話してもええか。

「うちは人間界とは違う世界に住んでんねん。その世界はうちのようなやつがいっぱいおつて、時々人間界に仕事のため行くやつもおる。でも絶対人間には姿見せたらあかん。」

莉子は興味津々って顔でうちをひざに乗せて体育館ずわりしている。ちよつと顔近くないか？

「どうして私たちに姿を見られたらだめなの？」

「うちらは少し人間とは変わった能力をもつとる。それを仕事に活かしたりすんねんけどその能力を人間が悪用したりするかもしれない。だから姿をみられたらあかん。万が一みられたらそいつの記憶をいじって消す。これがうちの世界の掟やねん。」

「ねえ、あなたはその能力でなんの仕事をやってるの？」

「え？サーチャーやけど」

いきなり話を変えられたもんだからうちは素直に答えてしまった。莉子は飽き症なんかな。すぐ話題を変えたがる。

「サーチャーってなにをするの？」

「・・・その人の大事ななくしものをみつける、らしい。もういいか？記憶消すで。」

「待つて待つて。それじゃあ私のなくしものを見つけてよ。誰にも言わないから、お願い！」

莉子は手のひらをがっちりあわせてる。本当に困ってる顔をして目なんかしつかり閉じて口もこれでもかってぐらいへの字にして。でもうち、ほんまはこの仕事・・・。

「絶対誰にも言わないよ！なんでもいう事聞くから、ね？」

莉子の目は真剣にまっすぐこっちをみて、涙までだしそうや・・・  
こんな反則やわ。うちがいじめてるみたいになってるし。うちが  
おしに弱いのももしかしたらこの子しってるんちゃうか？・・・っ  
てそんなことより、どうしよ・・・あゝもう、しゃあないなあ。

「・・・誰かに言ったら承知せえへんで？」

「うん！！」

うちはえっへんと胸張って、莉子はまるで天使のような顔でうちに  
微笑んでいる。そういえば結局記憶消すの忘れてしもたなあ。ま、  
これからこの子の世話になるんやろうし誰にも言わへんって約束し  
たから、なくしものを見つけてからでええか。ふと窓の方を見ると  
太陽はもうすぐねる準備をしていて、空を茜色に染めている。人間  
界も結構きれいやん。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7003r/>

---

なくしもの

2011年10月8日21時59分発行